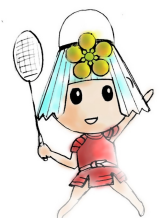


競技・審判上の注意

- 1 この大会は、平成 28 年度全国中学校体育大会、第 46 回全国中学校バドミントン大会要項、参加細則、平成 28 年度(公財)日本バドミントン協会競技規則、大会運営規程および公認審判員規程により行う。
- 2 審判は大会本部にて行う。サービスジャッジは準決勝からつけるものとし、その他の試合は原則つけない。線審は 2 人編成で行い、準決勝、決勝についてはコート 4 人編成で行うものとする。
- 3 タイムテーブルに基づいて試合を進行する。進行状況により予定された試合の開始時刻やコートを変更することがある。但し、タイムテーブルより開始予定より早めることはない。
- 4 試合が連続する場合は、前の試合の後 10 分間を確保して次の試合を開始する。
- 5 団体戦でコーチングシートに入れる者は、監督・エントリーされた選手・コーチまたはマネージャーとする。また、個人戦でコーチングシートに入れる者は、監督とともに団体戦登録者(コーチ・マネージャー・選手)または入場許可を得た者の計 2 名までとする。競技エリア内に入る者は、ID カードを必ず身につけること。コーチングシートに入る時の服装(監督、マネージャーまたはコーチ)は、マッチにふさわしい服装で臨むこと。チームユニフォーム、シャツ・ポロシャツ・ブラウス、長ズボンまたはスカートとし、ジーンズやビーチスタイル、バミューダ、ショーツ、スリッパとサンダルは禁止とする。(公認審判員規程第 3 条第 5 項第 6 号)なお、本大会では七分丈パンツの着用は認めない。
- 6 団体戦は試合の進行状況により、最初から 3 コート並行で実施することがある。団体戦は 2 試合(マッチ)先取で打ち切りとする。
- 7 各試合(マッチ)のインターバルは次の通りとする。
 - すべてのゲーム中に一方のサイドのスコアが 11 点になった時、60 秒を超えないインターバルを認める。
 - 第 1 ゲームと第 2 ゲームの間、第 2 ゲームと第 3 ゲームとの間に 120 秒を超えないインターバルを認める。
 - ともに、主審の「コート 20 秒」のコールで選手はコートに入り、ゲームに備えること。
- 8 シャトルがインプレーでない時に限り、プレーヤーはマッチ(試合)中アドバイスを受けることができる。プレーの遅延行為とならないよう、十分に注意すること。また、マッチ(試合)中、インプレーでない時のアドバイスはコーチングシートに座って行い、マッチ(試合)中はコートのそばに立って行かない。また、監督・コーチが他のコートに移動したい時は、必ずインプレーでない時に移動すること。
- 9 インターバル中に同時にコート内でアドバイスできるのは 2 人までとする。
 - プレーヤーがエンドを変えた後にアドバイスをし、主審の「コート 20 秒」のコールでコートから離れなければならない。(所定の席につくこと)
- 10 以下の違反をしたサイドに主審は警告をする。一度警告を受けた後再び違反した場合は、そのサイドをフォルトとする。
 - 体力や息切れを回復するためのプレーの遅延
 - アドバイスを受けることによるプレーの遅延
 - インターバルを除いて、主審の許可なしにコートを離れる違反
 - プレーを故意に遅らせたり中断したりする行為
 - 故意にシャトルに手を加えたり破損したりする行為
 - 審判員や観客に対しての横柄な振る舞い、下品で無礼な態度、言動
 - 見苦しい服装でプレーをすること
 - ラケットや身体でネットなどのコート施設を叩くこと
 - 耳障りな掛け声や叫び声を発すること
 - 競技規則を越えた不品行または不快な行動



第 46 回全国中学校バドミントン大会

- 11 水分補給，汗ふき，シューズのひも直し，滑り止めの使用については下記の点に留意し，必ず主審の許可を得てから行うこと。

水分補給の際は支給されたスクイズボトルもしくは大塚製薬製のスクイズボトルを使用すること。スクイズボトルはコートサイドのボトルトレイの中に置くこと。スクイズボトルカバーは外して使用すること。氷嚢の使用はインターバルの時のみ認める。また，クーラーボックスは，ベンチの下に入るような小さいものであれば，ベンチまでの持ち込みを可とする。但し，フロアーを濡らすことのないように十分注意すること。

うちわはインターバル時のみ使用を認める。但し，叩くなどの音を出さず行為はいかなる場合でも禁止とする。

シューズの滑り止め（シューダスターボートなど）の使用はインターバルの時のみ認める。但し，コートサイドに置いたままにしないこと。

グリップパウダーなどのグリップの滑り止め剤の使うタイミングについては，汗拭きと同様とする。コートサイドのかごに入れてもよいが，使用や保管の際にフロアーを汚さないようにすること。

指定のかごに入れられる物は，交換用ラケット・タオル・スクイズボトル・滑り止め剤までとする。その他の物は団体戦ではベンチで，個人戦ではコーチングシートで保管すること。

- 12 大会ウェアは，(公財)日本バドミントン協会審査合格品とする。上衣の背中中央部に縦 20cm×横 30cm の範囲内に学校名及び姓の表示をすること。その際に，ウェアに直接ロゴや文字をプリントしている場合は，ゼッケンの四隅を留めてそれを隠し，見えないようにすること。

- 13 試合前の練習時間については，団体戦の場合は各マッチ前に 2 分ずつ行う。シングルスは対戦相手と行い，ダブルスはパートナーと行うものとする。個人戦については同時に 3 分間とする。シングルスは対戦相手と行い，ダブルスはパートナーと行うこと。練習用シャトルコックは，本部で準備する。

- 14 マッチ(試合)中にけがや事故が生じた場合は，主審の判断によりマッチ(試合)を中断する。必要に応じて競技役員長(レフェリー)を呼び，その判断に従う。

- 15 審判の判定に「抗議」や「異議」を唱えることは一切認められない。審判員の判定に対して疑問がある場合は，次のサービスがなされる前に，団体戦では当該プレーヤーと監督が，個人戦では当該プレーヤーに限り「質問」をすることができる。

- 16 上衣のすそは，下衣の中に入れて競技すること。

- 17 選手は，試合前及び試合終了時に主審(サービスジャッジ)と握手をするよう心がけること。

- 18 試合中のモバイル機器(タブレット・携帯電話等)使用を禁止する。

- 19 棄権について

(1) 該当プレーヤーか監督がレフェリーに申し出る。(棄権届用紙に必要事項を記載し，提出する。)

(2) 対戦相手が棄権となった場合，勝者は選手招集のアナウンス後に，選手招集所で勝者サインをする。

- 20 選手は選手招集所への集合を案内された場合，速やかに指定された座席で係員のチェックを受けること。試合の開始に間に合わない場合は棄権となる場合がある。係員のチェック後に，招集所後方のアップスペースでアップをしてもよいが，係員の案内・指示に従うこと。

- 21 試合中の怪我等の応急処置は主催者で行うが，その後の処置は各自の責任とする。

- 22 その他は監督会議における打ち合わせ事項に準ずる。

